

区医だより

発行●浪速区医師会 編集●広報部

巻 頭 言

— 継 続 は 力 な り —

川 田 喜 代 子

(川田耳鼻咽喉科医院 院長)
(社)大阪府女医会名誉会長)

編集子より「区医だより」の巻頭言をとの依頼をうけ(社)大阪府女医会報には、毎回巻頭言を執筆していましたが、浪速区医師会報にはここ数十年前に記事を載せていただいて以来のこと。少々とまどって事務局よりとりあえず近々の冊子を送付してもらいました。諸先生方の記事は何れもなかなか読みごたえがあり、改めて感銘をうけた次第です。

丁度、私の所属している(社)大阪府耳鼻咽喉科医会には厚生部の中に美術部があり、毎年1月中旬に美術展を開催。今年で29回目となり、先日2月26日付けの府医ニュースに取り上げていただいたばかりなので、それについての苦労話を書かせていただくことにしました。

古い話ですが、1978年、耳鼻咽喉科厚生部

理事に就任。その3年後の5月に元会長故楠岡一雄先生の肝入りで、私の友人の耳鼻科医で太平洋美術部会員として絵画に造詣の深い生方雪子先生うぶかた たすの援けを得て美術部を結成。翌1982年、第1回美術展を“心斎橋ナルミヤ戎橋画廊”で開催。それ以後、会場は“ホリディイン南海”“エル・おおさか”と変わっても毎年1月半ばに美術展をつづけて今年で29回目になりました。正会員は発足時15名でしたが、家族を準会員として今では約90名が登録されています。展示作品は洋画、日本画、書、写真、工芸等多岐にわたり大変立派な作品が多く“戎橋画廊”では心斎橋の真中にあるため、通りすがりの一般の方も立ち寄られて“号”いくらで?と聞かれたようなこともありました。そして、有志の方々の作品の一部を当時新築されたばかりの阪大病院、奈良医大病院、徳島大病院へ寄贈して喜んでいただきました。

また、美術部では日展鑑賞会を初め、天王寺美術館元館長こうやま神山登先生の解説による国宝級佛像見学会も毎年催し、大へん好評で現在もつづけています。その他、金沢美術館を全み国的に有名にされ、ザザビーに招聘された蓑先生、足で描くフットペインティングの大家



(社)大阪府耳鼻咽喉科医会美術部展覧会(23.2.16付 府医ニュースより)



故^{しらが}白髪一雄先生等をお招きしての講演会を催したりもしました。先日インターネットで調べましたが、単科医会で単独の美術部を持って、しかも現在まで続いているのは当医会のみで、これは私の後任の中山堯之先生が担当理事として、又、その他の役員の先生方が一致協力努力していただいている賜と感謝しております。

ところで美術部といえば浪速区医師会でも、元会長故落合政明先生が耳鼻科医で、うちの区でも美術展をしてみたいと御相談をうけ、昭和63年(1988年)に第1回浪速区美術展が開催されたのを覚えていらっしゃるでしょうか？

その後、毎年、前の医師会館で盛大に開かれ、浪速区医師会会員や家族も参加。近隣の方々も来場されるなどたのしい催しでした。しかし、平成17年(2005年)第16回美術展以后は開かれていないのが一寸残念です。

さて、私自身、昭和28年(1963年)春、耳鼻咽喉科を開業してから現在58年になります。その間、主人が一昨年11月になくなり、心細く悲しい想いをしましたが、主人の意志でもあり、また、私の座右の銘『継続は力なり』をモットーに、現在もフルタイムで診療に専念しております。長男も主人の跡を継いでがんばっていますので、私自身も健康がゆるす限り診療をつづけてゆきたいと希^{ねが}って拙文を終わりたいと思います。

今后ともよろしく御支援下さいませ。



— 絆 —

理事会報告



◎平成22年度2月第1回定例理事会

日 時 平成23年2月18日〈金〉

午後8時～9時20分

場 所 浪速区医師会 会議室

協議事項

1. 平成22年度後期定時総会次第について
＜佐久間会長＞

資料にもとづき検討、原案通り了承。

2. 特別会計の廃止について
＜佐久間会長＞

公益法人制度改革の法人移行の準備にともない、本会の会計を一つにまとめるよう大阪府より指導があったため、特別会計を廃止したい。

協議の結果、了承。

特別会計で借入金返済のため積立てていた資産は、本会計の特定資産「会館建設資金返済引当金」として、積立てることとする。

3. 平成23年度第63回「保健文化賞」受賞候補者の推薦方依頼について

＜佐久間会長＞

例年のとおり、府医会長より推薦依頼があった。

協議の結果、「推薦者なし」と決定。

4. 法人改定委員会の開催日について

＜澤井副会長＞

3月16日〈水〉後期定時総会後に開催したい。

協議の結果、了承。

5. 次年度の新年互礼会の日程等について
＜徳田理事＞

例年どおり、次年度の予約をしたい。

協議の結果、次のとおりとなった。

日時 平成24年1月21日(土)

午後6時～

場所 スイスホテル南海大阪

7F花桐

6. ブルーカード登録医制について

＜久保田理事＞

資料にもとづき検討、病診連携委員会にて再度協議することとなった。

また、プレス資料については、一部修正を依頼することとなった。

7. 平成23年度歳入歳出予算案について

＜木田理事＞

資料にもとづき検討、原案どおり了承。

8. 学術講演会の謝礼と会場使用料について

＜橋本理事＞

次年度からの開催回数、謝礼、会場使用料について協議願いたい。

協議の結果、次のとおりとなった。

開催回数……………例年通り

講師謝礼……………講師と相談

会場使用料……………値上げする

9. その他

なし。

報告事項

1. 四天王寺病院第12回開放型病院登録医総会について(2月5日(土))

＜佐久間会長＞

次第は次のとおり。

▷開放型病院登録医総会

▷第29回学術講演会

一般演題「四天王寺病院における血液内科」

四天王寺病院

副院長 平井 学 先生

特別演題「同種造血幹細胞移植とは」

大阪市立大学大学院

医学研究科 血液腫瘍制御学

教授 日野 雅之 先生

(詳細 略)

2. 大阪市結核指定医療機関講習会について

(2月10日(木)) ＜佐久間会長＞

次第は次のとおり。

▷開催の挨拶

▷講義1 (公衆衛生)

講師 健康福祉局大阪市保健所

感染症対策担当

保健所感染症対策監

松本 健二 氏

演題 「大阪市における結核対策」

▷講義2 (臨床)

講師 財団法人 結核予防会大阪府支部

副支部長、大阪総合健診センタ

ー長、相談診療所長

増田 國次 氏

演題「結核の診断と治療」

▷質疑応答

▷事務連絡 (大阪市保健所)

▷講習会終了

(詳細 略)

3. 郡市区等医師会「公益法人制度改革」連絡協議会(説明会)について

(2月9日(水)) ＜澤井副会長＞

次第は次のとおり。

▷開会

▷挨拶

▷連絡事項

(1)日本医師会「公益法人制度改革への対応に関するアンケート調査(平成22年10月)」集計結果について

(2)本会実施の郡市区等医師会アンケートの集計結果について

(3)大阪府医師会の移行事務の進捗状況について

- (4) 郡市区等医師会定款変更案について
- (5) 郡市区等医師会対象の個別相談会の開催について
- (6) 移行手続き事務にあたっての留意事項について

▷協議（質疑）

▷閉会

（詳細 略）

4. 第18回病診連携委員会について

（1月31日〈月〉） <久保田理事>

次第は次のとおり。

- ▷第17回病診連携委員会報告について
- ▷病診連携委員会のアンケート結果について
- ▷病名コードの確認について
- ▷病院登録制について
- ▷大村医院（西成区）の地域医療ネットワークについて
- ▷ソフトバンクとの連携とブルーカードの今後の方針について
- ▷その他

（詳細 略）

5. 勤務医部会第8～11ブロック合同懇談会について（2月3日〈木〉）<橋本理事>

次第は次のとおり。

▷開会

▷挨拶

▷報告

- (1) 平成22年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会について
- (2) 平成22年度全国医師会勤務医部会連絡協議会について

▷シンポジウム

テーマ「女性医師支援策について」

- (1) 第9（大阪市西部）ブロック、
大阪厚生年金病院
名誉院長 清野 佳紀 先生
- (2) 第10（大阪市東部）ブロック、
国立病院機構 大阪医療C
副院長 山崎 麻美 先生
- (3) 第10（大阪市東部）ブロック、

大阪赤十字病院

呼吸器科副部長 吉村 千恵 先生

(4) 大阪府医師会 理事、勤務医部会

副部長 上田 真喜子 先生

▷閉会

（詳細 略）

6. 医療問題研究委員会について

（2月9日〈水〉）

<金田理事>

次のテーマにそって意見交換が行われた。

テーマ「保険医療における指導・監査について」

（詳細 略）



7. その他

なし。

次回会議 平成23年3月11日〈金〉午後2時～



2月度 学術講演会報告

学術担当理事 橋本 久仁彦

日 時 2月26日(土) 午後2時
演 題 「脳卒中治療の実際—脳血管内治療、
脳卒中地域連携パスを含めた当院
の取り組み—」
講 師 大阪警察病院 脳神経外科
医長 明田 秀太 先生
出席者数 8名
共 催 持田製菓(株)
情報提供 エパデールの最近の話題

明田秀太先生は、大阪警察病院において脳卒中治療に対する超急性期治療について開頭手術はもとより組織プラスノーゲンアクチベーター(tPA)治療を代表とする点滴治療や脳血管内治療まで幅広い治療を高い専門性を持って精力的に取り組まれています。今回、地域連携パスを含めて脳卒中治療の実際について講義して頂きました。

1. 脳卒中の疫学と分類

脳卒中は、急性に意識障害や麻痺、言語障害などを来す脳血管障害であり、従来は脳神経外科治療として開頭による血腫除去術や脳動脈瘤クリッピング術が代表であったが、治療法の進歩に伴い点滴治療や血管内治療など幅広い治療が行われている。脳卒中が大きな医療問題である理由は、生命予後の問題のみならず本邦において介護の原因疾患の1/4を占めており医療費の1/3を占めていることである。また、久山町研究でも明らかにされたように51%におよぶ高い再発率も課題である。このことから、急性期治療のみならず亜急性期のリハビリテーション、慢性期の予防治療まで一貫した治療が重要であり地域連携パスが作成され実行されつつある。

脳梗塞の分類として①ラクナ梗塞②アテローム血栓性梗塞③心原性塞栓症が挙げられる。

①ラクナ梗塞は直径100～600 μm の穿通動脈の閉塞により起こる15 mm未満の梗塞である。高血圧の多い日本人で脳梗塞の半分を占めていたが近年は減少傾向である。原因として、高血圧による穿通動脈硬化(リポヒアリノーシス)、分枝粥腫からの血栓症や塞栓症がある。②アテローム血栓性梗塞は脳内や頸部大血管のアテローム(粥腫)が原因であり、脳梗塞の30～40%を占めていたが生活習慣病の増加を背景に近年増加傾向である。梗塞を起こす原因の分類として、アテローム血栓自体による閉塞、血行力学的な機序(脱水や血圧低下により狭窄部での血流の低下)、アテローム血栓による末梢動脈の塞栓症がある。③心原性塞栓症の原因として、非弁膜性心房細動が50%以上を占めている。梗塞巣が広汎で脳浮腫や出血を来しやすい。

2. 脳卒中の予防と治療

脳卒中治療ガイドライン2009を基に解説された。まず一次予防として、高血圧患者においては血圧コントロール、糖尿病患者においては血圧コントロールおよびスタチンによる脂質管理、脂質異常症患者においてはスタチンによる脂質管理、心房細動患者においてはCHADS2スコアに基づくワーファリン療法が重要である。ワーファリン療法は、PT-INR 2～3(70歳以上では1.6～2.6)を目標にする。

急性期治療として、オザグレルナトリウム点滴やアスピリン内服による抗血小板療法、アルガトロバン点滴による抗凝固療法、エダラボン点滴による脳保護療法がある。さらに専門性の高い超急性期治療が登場しており、発症時刻からの経過時間により異なる治療が適応となる。もちろん適応とならない場合があるが、発症から3時間以内ならtPA治療(アルテプラゼ)、6時間以内ならマイクロカテーテルによる局所血栓溶解療法(ウロキナーゼ)、8時間以内ならMerciリトリバルシステムによる血栓回収療法が行われる。Merciリトリバルシステムは最新の治療法であり、大阪警察病院にも実は講演前日に採用されたとのことである。

再発予防(二次予防)としては一次予防と同じく高血圧に対する降圧療法は言うまでも無いが、インスリン抵抗性がある場合のピオグリタゾン治療、さらには高用量スタチン療法が挙げられる。また低用量スタチンとEPA製剤(エパデール)の併用療法は、本邦における大規模臨床研究(JELIS)により20%の再発低下が示されている。さらに非心原性脳梗塞に対するアスピリン、クロピドグレル、シロスタゾールによる抗血小板療法、心原性脳梗塞に対するワーファリン療法も重要である。

頸動脈病変に対して、症候性の50%以上狭窄病変と無症候性の60%以上狭窄病変に頸動脈内膜剥離術(CEA:Carotid endarterectomy)の適応がある。また、CEAの危険因子(心臓・重篤な呼吸器疾患、対側頸動脈閉塞、CEA再狭窄例、80歳以上など)を持つ症候性の50%以上狭窄病変と無症候性の80%以上狭窄病変に頸動脈ステント留置術(CAS:Carotid artery stenting)の適応がある。また、症候性の頸動脈や中大脳動脈病変について適応を満たした症例について、extracranial-intracranial(EC-IC)bypass術が考慮され自験例を示された。

クモ膜下出血については、破裂脳動脈瘤について再出血予防の重要性から72時間以内の手術が重要であること、保存治療として電解質も含めた栄養管理や呼吸管理の必要性について述べられた。また未破裂脳動脈瘤の手術適応については、年1~2%の破裂率から余命10年以上の症例、5mm以上の症例、症候のある症例が挙げられる。

脳血管内治療として、上記のCASおよび脳動脈瘤コイル塞栓術についてビデオを示して解説された。CASについては、バルーンやフィルターによる塞栓プロテクションデバイスを用いて形状記憶ステントを留置する。脳動脈瘤については、マイクロカテーテルにより形状記憶コイルを挿入するが血栓化に1カ月から数カ月かかる。

3. 脳卒中地域連携パス

はじめに述べたように、脳卒中治療には急

性期から亜急性期、慢性期の全ての治療が重要であり4つのチームが必要である。すなわち、かかりつけ医、急性期専門治療病院、回復期リハビリテーション病院、慢性期療養型病院や老人保健施設である。大阪においては大阪脳卒中医療連携ネットワークが2年前から構築が開始されている。急性期専門治療病院は大阪市内に17病院があり、大阪警察病院もその一つである。パスはExcelで作成され入力は簡略化されており必要な情報が連携して共有できるようになっている。大阪警察病院においては、パス使用症例の7割が脳梗塞であり、転院症例の54%にパスが使用されている。超急性期治療が登場したとは言え、依然として脳卒中には後遺症が大きな問題であり、社会復帰や自宅療養のために地域連携パスが重要なツールであることを最後に強調された。

(文責:橋本 久仁彦)

4 月度学術講演会のお知らせ

4月の浪速区医師会講演会の内容は下記のとおりです。

多数の先生方の参加をお待ちいたします。

日時:平成23年4月16日(土) 午後2時~

場所:浪速区医師会 会議室

演題:「DPP-4阻害薬の実際と期待」

講師:高槻赤十字病院

糖尿病・内分泌・生活習慣病科

部長 金子 至寿佳 先生

浪速区医師会 活動の伝言板

4月の各業務の出務予定は次のとおりです。
ご協力のほどよろしくお願いいたします。

三歳児健診

- 保健福祉センター
4月28日〈木〉午後1時40分～3時30分
眼科 吉野 成泰
耳鼻科 中村 泰久

BCG接種

- 保健福祉センター
4月21日〈木〉午後2時～3時30分
池田 良彦
有田 繁広

大阪市高齢者健康医療相談

- 老人福祉センター 午後2時～4時
4月1日〈金〉 金田 高次
4月5日〈火〉 中山 博文
4月8日〈金〉 川田喜代子
4月12日〈火〉 金子 良恵
4月15日〈金〉 山尾 信吾
4月19日〈火〉 大塚 治
4月22日〈金〉 中村 泰久
4月26日〈火〉 古川 雅人

急病診療所出務

- 中央急病診療所
4月23日〈土〉 午後3時～午後10時
山下 弘道
久保田泰弘

浪速区医師会クラブ活動案内

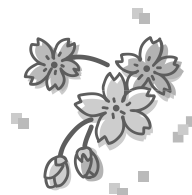
各クラブ活動は下記日程で行っております。
多数のみなさま方の参加をお待ちしております。
(ときに時間変更される場合もあり

ますので、各部代表まで連絡をお願いいたします。)

囲碁部 毎月第1・3・5(土)
(川田信) pm5:00～

浪速区循環器懇話会

日時 4月9日〈土〉午後2時～3時30分
場所 浪速区医師会館 会議室
主催 塩野義製薬株式会社
演題 『心房細動を意識した降圧治療』
講師 大阪大学大学院医学研究科
循環器内科学
講師 南野 哲男 先生



— お詫び —

先月号の一部に印刷ミスがありました事を深くお詫び申し上げます。 (株)サビ



あとがき

Y.M.

『区医だより』の巻頭言は今後浪速区医師会に所属する全会員が順々に担当することになったそうで、最初はどなたが執筆されたのだろうかと期待しつつゲラの到着を待っていたところ、御大川田喜代子先生だったのには少々驚いた。そう言えば先生の巻頭言への登場は自ら数十年ぶりと言われているように、ほとんど覚えがない。

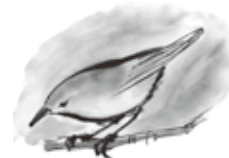
長年大阪府女医会の会長も勤められた大先生であるが、当地で開業されたのが昭和28年というから、なんと60年近くも昔のことである。当時はまだ戦後間もない時期であり、その頃の光景は想像もつかないが、多分焼け野原にバラックのような建物がひしめいていたのであろう。それどころかまだ生まれてもいなかった会員が少なくないだろう。そして今もなお現役医師を続けておられるのには感服するほかはない。

一昨年亡くなった川田義男先生とのおしどり夫婦ぶりは傍目にも羨ましいくらいであったが、お互いに信頼し、支えあっておられたからこそ、これほど長きにわたって無事医師としての道を歩んで来られたのだと思う。それに先生が多彩な趣味を持っておられること

も、またその医師人生を豊かにしたに違いない。ことに絵画は自ら作品を制作されるだけでなく、大阪全体の耳鼻科医師の愛好家を結集し、中心になって毎年美術展を催して来られたのだから、その行動力にも感心する。

あとがき子も拙い油絵を時々描いているが、これも浪速区医師会に参入して2年目の昭和63年に第一回区医美術展が開かれたのがきっかけになった。高校卒業以来35年ぶりに絵筆を握ったのだが、お陰でその後20年余り唯一の趣味として今も続いている。浪速区に来た途端、絵心に火をつけてもらったのも何か不思議なご縁であったような気がする。

我々医師は毎日神経をすり減らしながら、日々単調な仕事を繰り返している。何も美術には限らず、音楽でもゴルフでも釣りでもよいから、一時仕事のことを忘れて無心にのめり込めるような趣味を持てれば、むしろ本業の活力も持続できるように思う。本業の方は、嫌でも一生涯継続せねばならないのだから、趣味も一生打ち込めるものでないと長続きしない。まさに「継続は力」だと思う。巻頭言士のように60年間現役とはゆかぬまでも、あとがき子も趣味の油絵を継続しつつ、もうしばらくは医師としての本業も継続したいと思っている。



目次	ページ
巻頭言	
—継続は力なり— 川田喜代子	1
理事会報告（2月開催）	2
2月学術講演会報告 橋本久仁彦	5
4月学術講演会のお知らせ	6
浪速区医師会活動の伝言板	7
あとがき	8

【区医だより】

発行者 佐久間靖博

編集者 中村泰久 橋村直隆

印刷所 株式会社 サビ

投稿規定

1. 原稿用紙使用、横書き
2. 原稿枚数：不問(但し分載あり)
3. 締切：5日(厳守)
4. 発行：25日前後